

NPO法人森を再生する会

調査団体名	森を再生する会	団体代表者名	NPO法人森を再生する会 (兼NPO法人エコネットあんじょう)理事長 神谷輝幸
設立年	2002年4月12日	対応してくれた人の名前	神谷輝幸
団体URL	http://econetanjo.org/	取材者	浅田益章 沖 章枝
活動拠点	矢作川水源地域の設楽町・根羽村	レポート作成者	沖 章枝
取材日	2017年12月11日		

活動内容

生態系豊かな森が育む命の水は中流域・下流域を潤し海の恵みを与えてくれていた。しかし、ずっと森を守って生きてきた山村の人々は木材価格の低迷等によって山を見捨てざるをえず、過疎の村が広がってきている。水源の森づくりは本来市町村や県、国の事業として行うことが理に適っているが、山が危機的な状況であることや水資源が貧弱になっていることを実感して、ただ待つのではなく水の利用者である中・下流域住民で気づいたものから行動を起こさないと手遅れになると思った。

この15年間の活動

- ◆持ち主の賛同をいただいた山で広葉樹の植樹
 - ◆矢作川水源のスギ・ヒノキ放棄林2haを購入し、針葉樹を伐採・搬出。そこに本来その土地に生えている潜在自然植生木の広葉樹を植樹
 - ◆春秋に植樹祭 ◆記念講演会 ◆チェンソー講習会 ◆自然観察会
- 安城市街地や旧作手村、東浦町の『いのちの森植樹』も含めて合計で13,000本の木を植えることができた。

2017年度の活動

- ◆5月、6月 巻きがらし間伐 ◆7月 設楽町の「千年の森」にて自然観察会
- ◆8月、9月 間伐 ◆10月 植樹&獣害防止ネット設置 ◆11月 ドングリ蒔き
- ◆12月 間伐したヒノキでまな板を作って参加者に配布

会員 約100人余 年会費一人2000円

事業はイオン環境財団、あいち森と緑づくり事業、国土緑化推進機構の助成金で運営している

キャッチフレーズ

森は命！水源の森を守ろう！生態系豊かな水源の森づくりをして次世代に渡していこう！

会のモットー（何を大切にしているか）

行動をすることで森づくりの大切さを市民に広めたい。
流域は一つ、運命共同体。水を利用するものは水を作れ（安城初代町長岡田菊次郎の言葉）

設立から現在に至るまで変化したこと

- ・2000年、生態学者宮脇昭先生の『ふるさとの木によるふるさとの森づくり』に感銘をうけて、安城市民会議環境委員会にて『市民の森づくり』を提案。都市部で実践しようとしたが、都会化していく市街地で植樹場所などの問題が出てうまく進まなかった。それならば、戦後拡大造林政策で山の頂上までスギ・ヒノキが植林され、手が入らず荒れている山を再生させようと行動の転換をした。この頃、設楽町の知人から「自分の山を使って水源の森づくりをしないか」と申し出があり、広葉樹の植樹を始めた。
- ・2002年、『森を再生する会』を設立。翌年NPO法人認証
- ・2010年、矢作川水源の設楽町のスギ・ヒノキの放棄林2haを購入し、以後、針葉樹の伐採と搬出、広葉樹の植樹。
- ・2015年3月 根羽村の森林36haの購入の覚書が安城市と根羽村の間で交わされた。
- ・2017年8月 安城市市議会へ『安城市の水を確保するため、水源涵養林の保全に資する基金の設立を求める請願』をし、全会一致で可決された。

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、地域資源活用など):

下流域の人が「水源地だから大切に」と思っている、上流域の人は水源地というだけでは生活ができない。人的物的な交流と取り組みが必要になる。
イベントに招待して根羽村の根羽杉製品の紹介や物産展を開催している。

現在直面している課題:

市議会で「安城市の水を確保するため、水源涵養林の保全に資する基金の設立」が認められたとはいえ、市民も役所も完全に理解しているとはいえない。水源の森づくりのための基金が用途が違うものに使用されるようでは意味がないものになる。正しい理解をするためのネットワークと広報がいると思う。

今後進めたいこと:

安城市の水利用は、表流水70%、地下水30%で地下水の利用率が高い。地下水を使いすぎれば地盤沈下の問題も起きる。経済的コストではなく環境面への視点と配慮が広がるようにしたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か:

常任的なアドバイザーはいないが、毎年講演会を開催している。宮脇昭先生や気仙沼上流の山に牡蛎の森をつくった畠山重篤さん、日本熊森協会会長森山まり子さんなど講師として招いた方と連携しながら情報を頂いている。講演会に参加した人たちとも繋がって大きくなった。これからは人と人とのつながりを大事にしたい。

チームオリジナルの質問:

<質問内容>

水源地根羽村との上流・下流の連携を教えてください

<答え>

根羽村と安城市の関わりは明治用水に始まって歴史的が長い。

根羽村の森林36haを購入することによって『矢作川水源の森トラストプロジェクト』が設立された。

6回目を迎えた『矢作川水源の森トラストプロジェクト フォーラム2018』では、基調講演として横浜市水道局の温井浩徳氏から、横浜市が水道水源として村有面積の36%を確保する山梨県道志村の『道志水源の歴史と取り組み』が紹介された。パネルディスカッションで根羽村村長や森林組合参事とも意見交換をした。

チームオリジナルの質問:

<質問内容>

『森を再生する会』『エコネットあんじょう』『矢作川水源の森トラストプロジェクト』3つの団体の違いは何ですか

<答え>

森を再生する会は、水源の森をつくること、守ることを目的として行動をしている会。

エコネットあんじょうは、安城市内の環境団体が集まることで、市内の環境問題を行政と企業、市民が協働で解決することを目的に結成された。

矢作川水源の森トラストプロジェクトは、エコネットあんじょうの事業の一つで、市民が主体となって根羽村の森林36haを購入することによって、安城市民の飲料水等良質な水を確保するに必要な水源涵養林を作る活動。

その他、伝えたいこと:

以前に比べると少なくなっているが、安城市には湧水が豊富にあった。

水源地の根羽村と安城市の落差は1000m近くある。降った雨は地下水になって1日1m下るといわれている。根羽村の地下水が安城市に届くには252年かかることになる。みんながあつて当たり前と思っているけれど、水めぐりの恩恵は深い。こうしたことも多くの人に知ってもらいたい。

写真

取材風景 (2017年12月11日)

(① 森を再生する会 理事長
の神谷輝幸さん)

安城市のデンパーク公園に隣接した駐車場に
あるNPOエコネットあじょうの事務所を訪ねた。
(愛知県安城市赤松町梶63番地1)

植物生態学者の宮脇昭先生の理論に基づいた
植樹を行っている。「ふるさとの木によるふるさとの
森づくり」「命の森を伝えたい」



活動状況



② 事務所はデンパーク公園のそばにある



③ スギ・ヒノキの放置林を購入、伐採。
広葉樹の植樹活動で水源の森づくり
(ブナ、ミズラナ、アカガシなど)
26種類以上の広葉樹を植えている



④ 「水と木の実と動物の楽園を作ろう」

安城市から遠く離れた設楽町の水源の
森づくり



⑤ 【水をつかう者は自ら水をつくれ】
2018年1月27日(土)アンフォーレで
「矢作川水源の森トラストプロジェクト・フォー
ラム2018」開催チラシ。
安城市と根羽村の人的物的交流と市民の
ための水源の森づくり